

その他の道路貨物運送業における死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2019	7	6 ～ 8	市道の交差点付近において、被災者が港に帰るために東に向かってトレーラーを運転していたところ、対向車線を走行していたトレーラーが側壁に接触した拍子に対向車線にはみ出したため、トレーラー同士が正面衝突した。	221	17	30 ～ 49
2018	7	20 ～ 21	チルドセンターにてトラック（最大積載量2,850kg）から荷卸し後、荷台の後部扉を閉めるため、当該トラックを前進させ、運転席から降りた際、当該トラックが前方に向かって動き出し、トラックの前面部とコンクリート壁に挟まれ被災。	221	7	10 ～ 29
2018	8	12 ～ 13	被災者は、配送先の事業場において、トラックの荷台から荷下ろし作業中に倒れ、救急車で病院に搬送されたが、くも膜下出血で当日死亡したものの。	921	90	10 ～ 29
2018	11	6 ～ 7	会社から土砂を積みに行くため、ダンプカーで国道を南進中、橋を渡って200メートルほどの地点で反対車線にはみ出して防雪柵に衝突、頸髄断裂により死亡した。小雨が降っており、路面は濡れていた。	221	17	50 ～ 99
2017	1	16 ～ 17	被災者はトラックで配送中、配送先から荷物が届かないとの連絡があり、配送先の近隣を探索したところ、同市内に停車したトラックの運転席で横たわっているところを発見され、翌日に死亡した。	921	90	1～ 9
		6	工事現場にて排出された土砂の運搬のため現場に入場していたダンプトラックが、荷台に土砂を積んだ後、現場内の作業道から通ずる仮設栈橋を			1～

2017	3	7	～	渡って現場外の残土置き場に向かおうとしていたところ、現場内の作業道と仮設栈橋の接合部付近において、作業道端部の単管柵及び仮設栈橋の柵を突き破って約3 4メートル下の沢に墜落した。	221	1	9	
2017	4	16	～	17	コンテナ内において、被災者が1番奥に積込まれた荷の固定状況をカメラで撮影していたところ、荷を載せたフォークリフトの運転手がそれに気づかずコンテナ内に進入したため、激突された後、1番奥の荷とフォークリフトで運ばれた荷の間に挟まれたままとなったものと推定される。行方不明となった被災者を捜すため、本牧ふ頭に運ばれた当該コンテナを開梱したところ、被災者が挟まれ死亡しているのが発見された。	222	6	10 ～ 29
2017	7	14	～	15	被災者は、倉庫内において、家畜の餌となる飼料用パン粉を搬送用ダンプの荷台に積込む作業をする際、高さ3. 5m、幅0. 3mの荷台枠上で、荷台を覆っていたシートを外す作業をしていたところ、地面に墜落し、頭部を強打したことによる外傷性くも膜下出血により死亡した。被災者は保護帽を着用していた。	221	1	30 ～ 49
2017	8	10	～	11	宅配先の前の道路にトラックを停車させ、宅配するためトラックから離れたとき、トラックが逸走し始めたので、止めようとして運転席に飛び乗ったものの、道路脇のコンクリート壁と宅配トラックとの間に挟まれた。	221	17	10 ～ 29
2017	10	6	～	7	2 tトラックの荷台から、鉄製のかごに入れた産業機械の部品（計約5 10 K g）を降ろそうと、同僚が荷台上でゲートリフターを降下させたところ、かごの中の荷が傾き、地上でかごを押さえていた被災者に激突し、被災者は荷の下敷きになり死亡した。	612	4	10 ～ 29
2015	12	9	～	10	ダンプトラック荷台の最後部にある開閉式の「扉」を補修する作業において発生した災害。被災労働者1名が、当該扉（推定重量は約1 0 0キログラム）を開いた状態でその腐食部位を溶接によって補修していたところ、これを保持していた支柱が何らかの理由により脱落したために当該扉が落下し、これが被災労働者の頭部を直撃したものの。	221	6	10 ～ 29
		0			被災者は、タンクローリー車を運転して市内の油槽所から隣の県内の給油所へ配送に向かう途中の国道の片側1車線の左カーブで横転し、ガード			10

2015	4	～ 1	レール等をなぎ倒して約2メートル下の斜面に転落し、頭を強く打ち死亡したもの。	221	17	～ 29
2015	6	11 ～ 12	国道をLPガスボンベ配送業務のため3tトラックを運転中、道路壁面に接触した後に前方車両の10tトラックに追突し運転室大破により出血性ショックで死亡。医科大学のドクターヘリ医師により同日12:50に死亡確認された。	221	17	1～ 9
2015	2	20 ～ 21	平成27年2月16日15時に出発点呼を受け、16時25分頃に事業場から出発した。翌日2時10分頃に業務を終了し、3時頃に休憩場所に到着した。次の仕事へ着車されていないという連絡が入り、近くのコンビニで車両が発見された。19時20分頃に救急搬送され、20時22分に死亡が確認された。	921	90	300 ～ 499
2014	4	8 ～ 9	トラックを運転し、単独でプロパンガスの配送中、トラックを止め、降車した際、トラックが後退を始め、被災者がトラックを停止させるため乗り込もうとしたところ、トラックと道路脇の石垣との間に身体を挟まれ、振り落とされ、トラックの前輪に頭部を轢かれ、死亡した。	221	7	10 ～ 29
2014	5	10 ～ 11	通勤中、鉄道の線路内に立ち入り、列車にひかれ、死亡した。尚、死亡前3ヶ月間の一月当たりの時間外労働は、おおむね100時間を超えていた。	921	90	50 ～ 99
2014	5	6 ～ 7	中型トラックを運転し、国道を走行中、渋滞中の車両に追突し、4台が絡む玉突き事故を起こした際、前方の車両の運転手らの無事等を確認し、中央分離帯の上を歩き、トラックへ戻る途中、反対車線へ転倒し、走行してきた軽乗用車にはねられ、頭などを強く打ち、死亡した。	231	17	1～ 9
2014	10	4 ～ 5	運転するトラックが自動車を走行中、後ろから走行してきたトラックに追突され、道路左側の法面に乗り上げ、横転した。	221	17	10 ～ 29
2014	12	11 ～	貨車の最後尾に立ち、操車業務中、運転者へ無線にて緊急停止を伝えた際、制動が間に合わず、被災者が貨車を飛び降りたところ、トラックと衝	221	4	10 ～

		12	突。貨車から落下してきたコンテナの下敷きとなった。			29
2013	10	9 ～ 10	国道にて3トントラックが反対車線にはみ出し、対向の乗用車と接触、さらに乗用車の直後を走っていた2トンダンプと正面衝突した。	221	17	1～ 9
2011	11	10 ～ 11	工事現場に、労働者がダンプを運転して盛土として使用するシラスを降ろした後、現場でタイヤ（前輪）がはまり動けなくなったため、後続のダンプの運転者であった被災者が、動けなくなったダンプの脱出作業の補助をダンプ後ろで作業していたところ、ダンプ後方のブルドーザーとダンプ後部に挟まれ被災した。	221	7	1～ 9
2011	8	10 ～ 11	会社から工事現場へコンクリートミキサー車で生コンを運搬中に、道路の電柱に衝突したもの。自損事故である。（生コンの運搬のみ）	221	17	30 ～ 49
2011	12	20 ～ 21	平成23年12月12日に高速道路上り線の登板車線にて、営業所に勤務する運転手（被災者）が運転する10トントラックが前方を走行していた大型トラック（牛を運搬中）に追突し、死亡したものである。追突された大型トラックを運転していた運転手は、重傷である。	221	17	10 ～ 29
2010	7	17 ～ 18	新聞印刷工場から隣県の配送センターに新聞を配送するため、ワンボックスカーに新聞を積み工場を出発した。高速道路を走行中、トンネル内で故障して停車中のトラックに被災者の車が追突し、腹部等を負傷して死亡した。	231	17	1～ 9
2010	3	2 ～ 3	アスファルト製造工場の敷地内において、ダンプトラック（10t車）にアスファルトを積み込む際の前作業として、荷台にアスファルトのこびり付防止のための「軽油捲き作業」を行っていた被災者が、ダンプの助手席側のコンクリート上に倒れているのを別の事業場の労働者が発見した。トラックの荷台から降りる際に足元が滑ったとみられる。	221	1	1～ 9
		16	土砂運搬現場視察の帰りで、乗用車に3名が乗車し高速道路を走行中、走行車線から追越車線に進路変更し、走行車線の車両の追い越しを確認後、左ウィンカーを表示し、ハンドルを切ったところ、後輪がスリップしたの			1～

2010	2	～ 17	で、ハンドルを戻したが、中央分離帯に接触し、運転席側を下にして横転した。その際、後部座席にいた被災者はシートベルトを着用してなく乗用車から放り出され、頭部を打ち死亡した。	231	17	9
2009	7	10 ～ 11	ペットボトルリサイクルセンターの事業場内ヤードにおいて、事業場のトラックにて運搬してきたペットボトル・ベール（プレス品、重量約400kg）を、客先のフォークリフト（クランプ式）を運転して荷下ろしの作業を実施していた。その際、フォークリフトに荷を積載し、マストを上げ、前進、右旋回操作中に左側へ転倒した。被災者（運転者）はフォークリフトヘッドガードフレームと地面にはさまれた。	222	2	10 ～ 29
2009	2	14 ～ 15	コンクリート工場から近くの廃棄物処理場へミキサー車の洗浄に向かうため同工場を出発し、直線道路を約100m程進んだところ、道路左側の土手（高さは約3.1m）から転落した。なお、アスファルト舗装された道路幅は6.1m、土手の高さは約3.1m。	221	17	1～ 9
2008	5	6 ～ 7	自宅納屋で縊死しているのが発見された。	921	90	100 ～ 299
2008	7	16 ～ 17	木材を搬出するための作業道において、木材運搬用トラックの運転者である被災者は、グラップルを操作してトラックに木材を積み込んでいたところ、トラックが下り始めた。被災者が、運転席付近に駆け寄り乗り込もうとした際、トラックが作業道脇の盛土部分に乗り上げて横転し、下敷きとなった。	221	2	1～ 9
2008	6	8 ～ 9	被災者は、トラックの運転、配送ルート作成、運転者の配置調整等の業務中に意識がなくなり、病院に収容されたが死亡した。	921	90	10 ～ 29
2007	9	10 ～	事業場敷地内の屋外の荷捌き場において、パレットの上に載っている荷を人力でトラックに積み込む作業を行っていたところ、パレットとトラックの間で作業を行っていた被災者が、同僚の運転するフォークリフトに激突	222	6	10 ～

		11	され、フォークリフトのバックレストとトラックの後部バンパーにはさまれた。			29
2007	3	13 ～ 14	製鉄工場発注の防熱板（約1.6m×約4.0m、重量約800kg）をトラックにて構内納入し、荷台より構内天井クレーンを使用して荷おろし作業をしていたが、玉掛けワイヤロープが不均一であったことから数回長さ合わせを実施し、ロープを手で引っ張った時に防熱板が倒れ、荷台上にいた被災者とともに転落し、被災者は防熱板と地上に設置していたノロパック（鉄製）との間にはさまれた。	611	5	1～ 9
2006	3	11 ～ 12	被災者は引越作業の応援業務のため、出張作業を行っていたところ、トラックの荷台でうつぶせになって倒れていたところを発見され、病院に搬送されたが、同日に死亡した。	921	90	10 ～ 29
2006	5	18 ～ 19	出勤途中に気分が悪くなり病院に搬送され治療を受けていたが、死亡した。	921	90	100 ～ 299
2006	11	23 ～ 24	被災者は自走によりトラック（8t）を陸送するため、午後5時ごろ金沢を出発した。午後8時ごろギヤの不具合を感じ国道の路肩にトラックを停車させ、車体の下に潜り修理をしていたところ車が動きだしプロペラシャフトに衣服が巻き込まれた。	221	7	10 ～ 29
2006	9	10 ～ 11	カーキャリア（キャリア部は2段式で、車5台分積載可能）で車2台を積載し、運搬先に運搬した。2台目の車を降ろすため車のあるカーキャリアの上段部に上り車に乗り込もうとしたとき地面に墜落した。	221	1	1～ 9
2006	6	0 ～ 1	赤信号で停車中のトラックに、荷を運搬している途中の被災者の運転するトラックが追突した。	221	17	10 ～ 29
2005	6	10 ～ 11	トラックを運転中、国道の片側1車線の直線道路で走行していたところ、対向車線にはみだし、他のトラックと衝突した。	221	17	30 ～ 49

2005	8	11 ～ 12	国道を走行中、渋滞中の車両に追突した。	221	17	1～ 9
2005	4	7 ～ 8	トラックで高速自動車道を走行中、インターチェンジ出口付近の右カーブを曲がりきれず、防音壁に激突し横転した。	221	17	30 ～ 49
2005	7	15 ～ 16	オートバイで走行中、カーブにてセンターラインをはみ出し、対向車のトラックと衝突した。	231	17	1～ 9
2005	12	6 ～ 7	製材装置から排出されたおがくずを溜めておくサイロから、トラックへおがくずを積み込む作業中、おがくずの落下によりトラックの荷台内で生き埋めとなった。	522	4	10 ～ 29
2005	6	2 ～ 3	高速自動車道において、運転していた大型キャリアトラックがパンクしたため、車両を路肩に停車し、車外前方にて修理依頼の電話をしていたところ、後方から来た大型トラックがキャリアトラックに追突し、キャリアトラックとガードレールとの間に挟まれた。	221	17	10 ～ 29
2005	8	4 ～ 5	軽ワゴン車で国道を走行中、対向車線にはみ出し、対向して来たトラックと正面衝突した。	231	17	1～ 9
2004	9	9 ～ 10	国道を大型トレーラーを運転して走行中、連続したS字カーブを通過したとき車両が横転し、ガードレールに接触しながら橋の欄干に衝突し、被災者は車内より投げ出され、約8m下の川に墜落した。	221	17	30 ～ 49
2004	5	15 ～ 16	フレートセンター構内において、荷卸しの順番待ちをしていたところ、体調不良を訴えたため救急車で病院に搬送されたが、死亡した。	911	90	10 ～ 29
2004	10	16	台風が接近してきて親会社の裏山から流水が流れてきたため、土嚢を積み排水溝に水が流れるようスコップを使い山からの流水の流れを変えていた	711	5	30 ～

		17	ところ、土砂崩壊に巻き込まれた。			49
2004	10	16 ～ 17	配達の途中、道路上においてトラックにはねられた。	221	17	10 ～ 29
2004	12	9 ～ 10	鋼板コイルの積み込み作業において、横倒しになった鋼板コイルの下敷きとなった。	611	5	10 ～ 29
2004	12	12 ～ 13	国道で大型トラックを運転していたところ対向車線をはみだし、前方から来た大型トラックと正面衝突した。	221	17	10 ～ 29
2004	4	17 ～ 18	アスファルトフィニッシャーの運搬作業中、舗装工事現場近くの下り坂に停車したトラックにアスファルトフィニッシャーを積み込み、トラック横で積荷の確認作業中にトラックが動き出し、被災者がトラックの横を追いかけて走っているときにトラックの後輪に巻き込まれた。	221	7	10 ～ 29
2004	12	3 ～ 4	トラックの、荷降ろしのため車外で準備中、突然車体が前進し始めたため、被災者はこれを止めようと両手で押さえたが止まらず、同車の前に停車していた別のトラックとの間に挟まれた。	221	7	1～ 9
2004	8	9 ～ 10	被災者は作業講台上でトラックの荷台から鋼管を仮置場へ荷卸しするため、トラック荷台上で玉掛け作業を行っていた。玉掛けのため、鋼管の片端をいったんつり上げ、その下に板をかませた上で下ろしたところ、突然鋼管が転がり被災者に激突し、被災者は鋼管とともに荷台に転落し、鋼管の下敷きとなった。	611	6	1～ 9
2003	11	16 ～ 17	運送作業が終了したので土場でダンプ・トラックの荷台を上げ、荷台とシャーシーの間で充填器でグリスを充填しているときに、荷台が落下してきてシャーシーフレームと荷台との間に頸部をはさまれた。	221	7	10 ～ 29
2003	8	4 ～	2tトラックで新聞社の印刷工場から専売所に新聞を配送してもどる途中、県道の交差点で信号待ちをしている10tトラックに追突した。	221	17	50 ～

		5				99
2003	5	22 ～ 23	筈の集荷に向うため運転手ほか1名がトラックで県道を走行中、県道脇を流れる河川に転落し、同乗していた1名が死亡した。	231	17	1～ 9
2003	5	3 ～ 4	大型トラック（最大積載量9400kg）に荷を積んで高速道路を走行中、大型トレーラーに追突した。	221	17	10 ～ 29
2003	4	4 ～ 5	普通トラックで国道を走行中、センターラインを越えて対向車線へはみ出し、前から来た大型トラック（タンクローリー）と正面衝突した。	221	17	30 ～ 49
2003	3	8 ～ 9	3人が住宅の引越し作業のため軽ワゴン車で走行中、後続車に追突されて対向車線に進入し、大型トレーラーと正面衝突して2名が死亡した。	231	17	30 ～ 49
2003	3	8 ～ 9	3人が住宅の引越し作業のため軽ワゴン車で走行中、後続車に追突されて対向車線に進入し、大型トレーラーと正面衝突して2名が死亡した。	231	17	30 ～ 49
2003	3	10 ～ 11	10tダンプ・トラックで、碎石場から建設工事現場に碎石の運搬作業中、町道の上り坂のカーブ手前の路肩が長さ13m、幅3.4mにわたって崩壊し、約40m下の道路に転落した。	711	17	1～ 9
2003	2	11 ～ 12	アパートの引越し作業で、2階から荷物を降ろすため階段を降りていて、1階と2階間の踊り場に転落した。	413	1	30 ～ 49
2003	2	6 ～ 7	3tトラックに家具を積載して国道を走行中、駐車場から出てきたトラックを避けようとして対向車線に飛び出し、大型ミキサー車と衝突した。	221	17	50 ～ 99
2003	1	15	工場内にあるアスファルトガラ仮置場で、ドラグ・ショベルを用いて小さいガラと大きいガラに分別していたときに、高さ約7mのガラ山から転落	142	1	10 ～

		16	し、運転者が放り出されて下敷きになった。			29
2002	3	3 ～ 4	10tトラックで国道を走行中、信号待ちしていた搬送用トラックに追突した。	221	17	10 ～ 29
2002	8	3 ～ 4	4tトラック（保冷車）に冷凍鮪を積んで走行中、前を走っていた大型トレーラーに追突した。	221	17	50 ～ 99
2002	7	10 ～ 11	団地のプロパンガス集合貯蔵庫ボンベの交換で、2tトラックを貯蔵庫前の坂道に駐車し貯蔵庫内の空ボンベの確認をしていたときに、駐車していたトラックが後ろに下がったためトラックを追いかけて運転席側からトラックを止めようとしたときに、トラックとガードレールとの間に挟まれた。	221	17	1～ 9
2002	5	4 ～ 5	フレコンバックを積んで国道を走行中、対向車のトラックがセンターラインを超えてきて正面衝突した。	221	17	30 ～ 49
2002	11	3 ～ 4	炊いた飯500kgを工場からスーパー等へ配送するため車で国道を走行中、赤信号で停止しようとして減速していた10tトラックに追突した。	221	17	10 ～ 29
2001	7	8 ～ 9	積荷の砂利を運搬先のコンクリートプラントに降ろし空車で戻る途中、右折待ちで停車していた10tトラックに追突した。	221	17	10 ～ 29
2001	5	13 ～ 14	バキュームカー(2t)を納車したのち代車のバキュームカー(2t)を運転して走行中、自社に帰る途中、前走のトレーラーが停車しているのに気づくのが遅れて対向車線側に出たところ、対向車と接触して回転し、左側壁に激突した。	221	17	10 ～ 29
2001	4	5 ～ 6	トラックターミナルにおいて、11tトラックから荷を降し、車両の後部でアオリを閉めて幌を固定していたとき、他の運転者が運転席に乗り込みエンジンをかけようとしてギアをニュートラルに切り換えたところ車両が後進	221	7	100 ～ 299

			し、車両の後部とプラットホームとの間に挟まれた。			
2001	3	20 ～ 21	アスファルト資材を積込みに行くため10tダンプカー2台で県道を走行中、三叉路信号で赤信号のため停車した同僚のダンプカーに追突した。	221	17	1～ 9
2001	3	4 ～ 5	トラックに洗濯機60台を積んで走行中、左折のため減速していた前方のトレーラーに追突した。	221	17	1～ 9
2000	3	3 ～ 4	貨物自動車(4t)で荷物を積んで国道を走行中、バイパスの交差点で信号待ちで停止していた貨物自動車に追突した。	221	17	50 ～ 99
2000	6	14 ～ 15	コンクリートミキサー車で建設現場にコンクリートを配送中、ガードレールに衝突した。	221	17	1～ 9
2000	12	6 ～ 7	トラックで交差点を国道へ向けて進入したところ、窃盗の疑いでパトカーに追跡されて右方向から走ってきたトラックと衝突した。	221	17	1～ 9
2000	5	4 ～ 5	10tトラックに飲料水を積んで国道を走行中、対向の2tトラックが前方の耕耘機を発見して急ブレーキをかけたところスピンしてセンターラインをオーバーし、トラックの前に飛び出してきて衝突した。	221	17	10 ～ 29
2000	2	9 ～ 10	林内作業車を10tトラックに、クローラードンプを5tトラックに積み込んで林業現場へ移送し、林内作業車を荷台から卸していたときに突然進行方向の左側へ滑り出し、運転者はキャビンから飛び出したが、横転した車両に挟まれた。	142	7	10 ～ 29
1999	11	5 ～ 6	4tトラックに木材製品を積み走行中、信号待ちをしていたトレーラーに追突した。	221	17	1～ 9
		6	国道を保冷車(2トン)に乗って菓子屋に菓子を届ける途中、対向の大型ト			10

1999	9	7	レラーが左折しようとしてセンターラインを越えてきて、荷台から後方に6 ～7メートルはみ出していた鋼材に激突した。	221	17	～ 29
1999	9	5 ～ 6	梱包された新聞の輸送を終え、ワゴン車で国道を走行中、センターライン をはみ出し、対向の大型トレーラーと正面衝突した。	231	17	10 ～ 29
1999	1	10 ～ 11	大型ダンプで土取場より道路改良工事現場へ運搬のため道を走行中、スペ アタイヤの止め金具が外れてスペアタイヤが路面に落下、これに左後輪を 乗り上げて、右にハンドルを取られたため、路肩のガードレールを突き破 り約20m下の川に墜落した。	221	17	1～ 9
1999	1	9 ～ 10	プラントから工事現場へコンクリートミキサー車を運転し走行中、セン ターラインを越え、対向の大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～ 9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210\\_30.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_30.html)に戻る。